

STUDENTS

つくばスチューデント

2007年6月号



第33回宿舎祭（やどかり祭）より

全代会合宿研修会報告

関東甲信越大学体育大会

安全ポスターコンテスト2007

インターネット版つくばスチューデントURL
<http://www.tsukuba.ac.jp/campus/students/>



筑波大学
University of Tsukuba

第一学群自然学類から理工学群物理学類へ

小野田 雅重（数理物質科学研究科 准教授）



昨年度、消えゆく自然学類の歩みを残そうと、有志の学生により「自然学類記念誌」が出版されたが、その中で「自然学類を振り返って」という拙稿を書いた。筑波大学創設後間もない頃の記憶を整理したものである。今まさに、第一学群自然学類から理工学群物理学類へ衣替えしつつある時、一教員の立場からその気持ちを述べてみたい。またこの機会に、学生の皆さんに伝えておきたいこともまとめておく。

自然学類と物理学研究科

本学は改革を続けている。創設時は従来の制度にとらわれない新しい構想に基づく大学ということで、大変魅力的に感じられた。高校時代、どちらかと言えば理数系科目が得意であった私だが、大学で物理学の道に進むとは当初思っていなかった。むしろ高校までの間に学ばなかった新しい科学を学んでみたいと漠然と思っていた。入学後しばらくしてから、自分は物理学あるいは化学のような分野に向いていると気付いたので、自然学類のシステムには救われたと思う。大学院の改組再編に合わせた学類再編、あるいは大学の外へ学類の内容をわかりやすく示すこと等の理由から、自然学類物理学専攻は物理学類という縦割りの形をとることになったが、この方式は私のような未熟なタイプの学生には少し向いていないのかもしれない。一方、大学院に進む頃になれば、ある程度客観的に自分の適性を判断できるようになり、専攻別に絞られた研究科である物理学研究科（博士一貫）あるいは応用に力を入れた理工学群研究科（修士）に迷うことなく進むことができた。

物理学類と数理物質科学研究科

このように書くと、現在の改革を否定しているように感じられるかもしれないが、そうではない。本学創設後しばらくして工学系の学群・学類等が加わったが、その後の理学系、工学系

の一部では、教育・研究内容に大きな差がなくなってきた。昔は理学系という基礎研究の分野として捉えられていたが、現代は多かれ少なかれ応用・実用を意識しないといけないような流れがある。理学と工学の融合したところに新しい分野が開拓されるのかもしれない。まずは物理学の基礎を入学当初から身に付けて、大学院では、基礎から学際的な領域までをカバーする数理物質科学研究科の特長を活かして本格的に研究を進めることも一つの方法であろう。新学群・新学類で、これまで以上によい成果が出せるように、私も陰ながら頑張っていきたいと思う。

学生の皆さんへ

毎年新しい学生が研究室に入ってくる。彼らの研究に対する熱意は、ややもすると停滞がちになる研究のカンフル剤になる。物理学の基礎に対する理解度は様々であるが、最も重要なことは探究心だと思う。学生と切磋琢磨して研究を進めることが私の至上の喜びである。研究室に入ってくるまでの成績は、彼らのそれまでの努力の尺度であるが、芳しくない成績であるからといって悲観することはない。物理学を理解する方法は様々であり、それまでの方法が不幸にも適切でなかったに過ぎない。むしろ研究を通して、物理学への理解を深める方が向いている学生もいる。

自分の将来について悩むあまり、精神的に不安定になってしまう学生がいる。大学に進学することに全力を尽くし、進学後もそれなりに真面目に授業を受けていたのにそうになってしまうこともある。プライドの高い者にこの傾向は強いようだ。人のもつ価値観は千差万別であることを知り、あまり自分の理屈に固執しないことが肝要である。長い人生、種々の試練があるはずであるが、それらはすべて自分自身を成長させる肥しになる、と思って少し気楽に行動してみたらどうだろうか。

新学類・教育学類のスタートにあたって



唐木 清志（人間総合科学研究科 講師）

教育学類の誕生

教育学類が、この4月に誕生しました。正式名称は「筑波大学・人間学群・教育学類」です。なお、教育学類に心理学類と障害科学類を加えて、3つの学類から人間学群は構成されます。今年度は、第1期生に当たる39名の新入生を迎えることができました。先日ささやかな新入生歓迎会が行われましたが、その元気の良さは新学類・教育学類の今後の発展を予感させるものでした。今後、教員と学生が力を合わせて、教育学類の伝統を築いていけたらと思います。

「教育インターンシップ」の導入

人間学類・教育学専攻から人間学群・教育学類へ移行する際に、われわれ教員は教育課程上に様々な工夫を凝らしました。例えば、「キャリアデザイン入門」「人間フィールドワーク」といった学群コア科目を設置したことが、その1つです。さらに、教育学を構成する様々な研究領域のつながりを考えて、「人間形成系列」「学校教育開発系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」の4つの系列を設定し、学生にはこの中から特に関心のある系列を1つ選んで、その系列に含まれる授業を集中的に学んでもらうことにしました。この系列に関する授業は、2年生から受講することができます。

ここでは、このようないくつかある工夫の中で、特に「教育インターンシップ」という新設科目を取り上げ、その骨子を紹介したいと思います。

教育インターンシップは、簡単に言えば、学生が教育現場を訪問し、そこで見たこと・聞いたこと・感じたことを、その後の専門教育の学習に活かしていくことをねらいとした授業です。現在のところ、訪問先としては、小学校・中学校・高等学校・地域教育の現場の4つを考えています。教育インターンシップに関する授業（「教育インターンシップ基礎論」と「教育インターンシップ実践演習」）は2年生に入る

とすぐに始まりますので、1年生のみなさんは、どの教育現場を訪問したいかを今から考えておいて下さい。

私は教育学という学問は実践学だと考えています。そのような意味から、教育学では「現場主義」の発想が大切にされるべきです。例えば、いくら素晴らしい教育理論を提唱しても、学校の先生に「こんな難しいことは、忙しい教育現場ではとても実践できない」と拒否されたり、あるいは、生徒に「こんな授業面白くない」と否定されたりしたら、そのような教育理論は「素晴らしい」とは言えなくなってしまいます。また、われわれの身近には、小さい子どもを抱えて子育てに悩んでいるお母さんや、学びたいけど学ぶ場所がなくて残念な思いをしているお年寄りがたくさんいます。このような人々の声に真摯に耳を傾けていくことで、新しい教育理論が生まれてくるのだと思います。

教育学類の学生には、是非現場主義の発想を貫いて欲しいと思います。それが、教室や図書館での学びを深めていくことにもなるのです。

学びの場を広げることの大切さ

学びの場は、教室や図書館だけではありません。それは、学校の外側にも広がっています。教育インターンシップという授業が提案していることは、まさにこのことです。学校の外側で、大学関係者以外の人とどれだけコミュニケーションが取れるか、そこでどれだけのことを学ぶことができるか。みなさんが日常的に行っているサークル活動やアルバイト、ボランティア活動でも、その視点は大切にされるべきです。



連載：キャンパスの木々（3）

ナツツバキ（夏椿, *Stewartia pseudo-camellia* Maxim.）

中村 徹（生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻 教授）

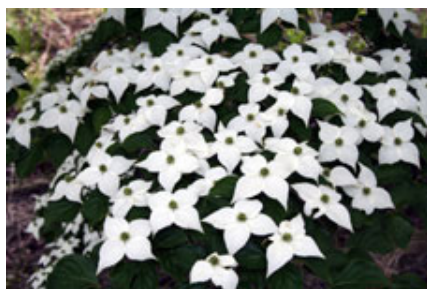
白い花の季節

6月。梅雨の季節。わが国ではこのうっとうしい季節に白い花が多く咲きます。エゴノキ、ミズキ、ハクウンボク、クリ、ネズミモチ、ヤマボウシ、低木ではウツギ、ガマズミ、マルバウツギ、モミジイチゴ、ヤブデマリ、カマツカ、枚挙にいとまがありません。じつは花の色には季節性がある、と考えています。

春一番は黄色い花の季節です。人里ではタンポポやナノハナ、フクジュソウなど、山ではマンサク（「まず咲く」が訛った）、ギブシ、クロモジ、アブラチャン、イタヤカエデ、サンシュユ、ヤマブキと、早く咲く花は輝度の高い黄色い色が多いのです。これはまだ淡々（あわあわ）とした春先の弱い光の中で、昆虫に花粉を媒介してもらうための植物側の智恵といえるでしょう。この時期、媒介昆虫はアブが多いそうです。

その後、黄色い花と重なりつつピンクや赤の花の季節になります。サクラやツツジ、フジなどのような色のついた花たちです。4月・5月、光も強くなり、派手な色の花が昆虫に好まれるのでしょうか。そして5月以後の白い花の季節に続きます。どんよりとした梅雨空のもとではやはり白い色が昆虫に見つけてもらいやすいのだろう、と考えています。

さらに秋には青～紫の花の季節になります。キキョウやリンドウ、マツムシソウ、ヨメナたちです。もちろん例外はたくさんありますが、季節の色があるって、楽しいと思いませんか？



白い花のヤマボウシ

沙羅双樹

6月頃、白い花を咲かせるナツツバキは、ツバキ科ナツツバキ属に属します。普通、ツバキ科は常緑樹が多いのですが、わが国に自生するナツツバキ属の3種はいずれも落葉樹です。その中で、ナツツバキは優れて品があり、よく目立つ花をつけます。茶の湯の席の花としても重

用されています。

このナツツバキはシャラとかシャラノキ（サラノキ）とか言われることがあります。平家物語の冒頭に謳われる

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす
の沙羅双樹はこのナツツバキを指しており、朝に花が咲いても夕方には散ってしまうはかなさの象徴として描かれています。しかし、これにはちょっとした誤認があります。お釈迦様の入滅の際、周りの沙羅双樹が一斉に花を咲かせて枯れた、とされる沙羅双樹は全くの別物であり、分類学的には縁もゆかりもないフタバガキ科の *Shorea robusta* とする樹木です。これを昔の僧侶が間違っ



花の咲いたナツツバキ

サルスベリ

ナツツバキの木の肌はむけてつるつるしており、サルスベリに似ています。神奈川、静岡、三重、和歌山、高知、福岡、宮崎など全国の多くの地方で山里の人たちがこのナツツバキや、同属のヒメシャラのことを「サルスベリ」と呼びます。同じように、カゴノキ、ヤマコウバシ、アオハダ、コシアブラ、リョウブ、エゴノキなどをサルスベリと呼ぶ地方が見られますが、これらはいずれも木の肌がむけてつるつるしていません。ちなみに植物図鑑にサルスベリとして載っているのは中国原産のミソハギ科の樹木で、夏の間長期間にわたって紅色の花を咲かせるので百日紅（ヒャクジツコウ）とも呼ばれる植物です。



ナツツバキの木の肌

「自分探し」と青年のうつ病

堀 正士（臨床医学系 准教授）

ここ数年、精神科外来診療の場面でうつ病が増えていると実感しています。これは抗うつ薬の売上高が年々増加していることから裏付けられます。ただし、これは世間のうつ病の患者さんが増えているのではなく、精神科を受診することに抵抗が少なくなってきた結果、潜在的な患者さんが我々の前に現れるようになったことを反映しているのかもしれない。いずれにせよ、確かに言えるのは外来を訪れる患者さんの中で20～30歳代の青年が増えていることです。私が医師に成り立てのころは、うつ病は中高年の病気であると言われており、青年がうつ病になる頻度は少ないと考えられていました。また、うつ病は抗うつ薬がよく効き、ある程度の期間治療を継続すると病前の適応レベルまで回復することが特徴でした。しかし、最近増えている青年期に見られるうつ病の中にはそういった「常識」では対処できず、治療者として苦勞をするタイプが多く見られるようになりました。今回はこの「青年期のうつ病」についてお話ししましょう。

病前の特徴

元来中高年のうつ病患者さんは病前には、他人に対して人一倍気を遣う傾向があるのに対して、青年期の患者さんはどちらかというと自分中心的な傾向が目立ちます。また中高年の患者さんは組織における自己の役割にこだわるのですが、青年期の患者さんは組織の中に位置づけられることを嫌う面が強く、仕事をとことん突き詰めるほどの精力性に欠けていることが特徴です。

症状の特徴

典型的な中高年の患者さんは、思考力や注意力の低下などから仕事を満足にできない自分への焦りやいら立ちを訴え、「皆に申し訳ない」と周囲に漏らすのが特徴です。一方、青年期の患者さんでは、職場のような社会の中での自分の立場を意識させられる場面を「ストレス」であると感じ、そこからの回避が目立ちます。ですから、彼らは職場から離れて自宅療養を開始

すると症状が速やかに軽くなり、それまで抑うつ症状が強かったにもかかわらず自分の興味のある事柄に対してはわりと早く取り組めるようになります。しかし職場が復帰を迫ると症状が悪化すると同時に「うつ病は休養が基本なのにわかってくれない。理解がない職場だから自分は治らない」などと、他者を責める姿勢が顕わになってきます。そんなことから職場関係者の中には彼らを「単なる怠けではないか」と考えるかたもいますが、重症度から判断すると中高年の場合と同様に「りっぱな」うつ病です。

治療経過

中高年のうつ病では、休養と抗うつ薬の継続的な服用により、ほとんどの人が病気になる前の元気な状態に戻ります。青年期のうつ病においても休養開始とともに症状は速やかに軽快します。しかし、その後職場に復帰させようとする、まるで職場という現実社会と自分の世界の間に見えない溝があるかのようにことごとく復帰に失敗してしまうことがよく見られます。その結果として慢性的なうつ状態に移行してしまう場合がとても多いのです。

背景として考えられること

この青年期のうつ病の背景として、彼らにとっていわゆる「自分探し」を十分に行うだけの時間的余裕がなかったこと、また社会人としての自己を確立する過程で生じる、種々のストレスに対する抵抗力が下がっていることなどが考えられます。また、彼らは人生の中で「うまくいかないこと」を「うつ病」の症状に置き換えてしまうところがあります。これは「病者としての自分」に安住する結果、「社会の中での自分」に直面化することを避ける事態となっています。ですから、彼らは自身が納得の行く社会の中での自分の居場所や役割を見つけるまではなかなか「うつ病」という枠の中から抜け出ることができないと思われます。それが青年期のうつ病が慢性化しやすい一因ではないかと考えられます。

松崎 治（学生生活支援室 生命環境科学研究科 講師）

今年も全学学類・専門学群代表者会議（以下、全代会）主催の合宿研修が、4月29日、30日の二日間にわたり、さしま少年自然の家（茨城県猿島郡境町）で行われた。これは、新たに選出された全代会構成員に対する導入教育と、学生および教職員の親睦を目的として、毎年行われる合宿研修である。参加者は、全代会構成員に加え、学園祭実行委員会、スポーツデー学生委員会、文科系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会執行委員会の各代表者、学生生活支援室の教職員、紫峰会職員、総勢60名余りとなった。

当日は、出発前に大学本部前で、腰塚武志副学長（学生生活）から、所用のため合宿研修には同行できないが、参加者には有意義な二日間を過ごしてほしいとのご挨拶をいただいた。それから参加者は二台のバスに分乗して、午前10時に大学本部前を出発し目的地に移動した。

バスは、田植えの始まった田園風景の中を一時間ほど走り、昼前には自然の家に到着した。昼食を食べて、午後2時から研修プログラムが始まった。今年は、研修目的として以下の3項目が掲げられていた。

- ・全代会構成員としての自覚を作る。
- ・各委員会毎に2007年度の活動目標を立てる。
- ・学生同士、または学生と教職員間で親睦を深める。

始めに、全代会以外の組織の丁寧な説明があった。次に、資料として「全学学類・専門学群代表者会議30周年記念誌」が配布され、全代会各委員会の説明となった。この冊子は、学生を代表する公認組織としての全代会が、学生生活と教育について全学生の意見をまとめ、検討し、教職員と共に歩んできた30年間の貴重な記録である。各組織及び全代会への導入はクイズ形式で行われ、一喜一憂しながら次第に気持ち



を揃えていく時間となった。想いは呼応し、全問正解者も出て、各組織や委員会の要領は端的に伝えられていった。配布された冊子の中に答があるとはいえ、役割を担ってきた者の真摯な活動の影が伺えた。本学の卒業生でもある紫峰会職員から、紫峰会、有朋会の説明もあった。学生生活を家族的視点で支援する頼もしい兄貴分の面目を示してくれた。

夕食・入浴の後、午後8時から懇親会が始まり、先輩、後輩、教職員の親睦は深更に及んだ。翌朝9時30分から始まった委員会別特別研修では、委員会毎に2007年度の活動目標が討議され、短時間のうちに手際よく模造紙やパワーポイントにまとめられて発表された。昼食は、5班に分かれて野外炊飯を楽しんだ。

初日の生真面目な要領伝達、その晩の親睦会、翌朝語る今年度の目標、役割分担よろしく出来上がった昼食の焼きソバ。代を重ねて練り上げられたプログラムで実行された研修だった。好天に恵まれ、手入れの行き届いた構内環境も後押ししてくれた。今年も全代会やその他組織の活動に期待し、支援室という言葉を真摯に受け止める研修会となった。



全代会議長就任挨拶

堀米 辰弥 (全学学類・専門学群代表者会議議長
情報学類 3年)



4月25日の第一回全学学類・専門学群代表者会議(以下、全代会)本会議で平成19年度議長に就任した情報学類3年の堀米辰弥です。

全代会は、その名の通り筑波大学にあるすべての学類および専門学群の代表者からなる組織です。学生の意見や要望を大学に伝えることが活動の中心ですが、クラス代表者会議などの学生組織や大学の活動への協力も行っています。昨年度の全代会では自転車交通環境ワーキンググループや学生宿舎改修に関するワーキンググループに参加し、大学とともに駐輪問題や学生宿舎について検討をしてきました。今年度もこういった会議に参加し、大学と協力して学内の環境を良くしていきたいと考えます。

今年度から学群・学類改組に伴って全代会の組織体制も新しくなります。学類数の変更により全代会の構成員である座長団の人数が増えるほか、委員会の体制も新しくなります。全代会の活動のもととなる調査活動を行う調査委員会や、学内の情報環境について活動する情報委員会などが今年度から発足しました。新体制1年目ですが、新しい委員会の活動が円滑になるよう、委員会同士の連携を強めていきます。

新しい試みとして、今年度は学内および大学周辺の治安について検討する委員会を立ち上げます。これまで全代会には学生の安全について活動する部門がありませんでした。今年度は大学のセーフティプロジェクトと協力して学生の安全確保に努めていきたいと思ひます。

学群・学類改組1年目で何かと課題の多い年となりそうですが、昨年度と同様、教職員との連携を重視し、学生の視点から意見を伝えていきたいと考えます。皆さんの声をもとによりよい学生生活を目指し活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

全代会研修会報告

4月29、30日の二日間にわたり、さしま少年自然の家にて全代会の研修会が行われました。今回の研修会は全代会構成員、各学生組織の幹部、さらに教職員の参加する大規模なものとなりました。

今年度の研修会では「幅広い交流」「全代会への理解」「全代会構成員としての自覚を持つ」の3つの目標をもとに研修プログラムを用意しました。たとえば、1日目の「全代会の説明」の時間では発足から30年間の歴史をまとめた全代会30周年記念誌を利用して、全代会1年目の座長団へ説明を行いました。2日目には全代会の各委員会に分かれ、今後の計画を立てる、ワークショップを行うなど各々工夫をこらした研修を行いました。これらは全代会構成員だけでなく、教職員や他の学生組織の構成員の方に全代会をより深く理解していただける良い機会となったと思ひます。

今回の研修会では残念ながら準備の詰めが甘く、研修プログラムの目標の達成度が今一歩となってしまいました。また、本来参加すべき座長団から欠席者が出てしまったことが来年度への反省点として挙げられます。

最後に、この研修会の準備に関わった全代会構成員、実施に際し多大なご協力をいただいた学生生活支援室、資金面などでの援助を頂いた紫峰会、各学生組織の方々、ご参加・ご支援いただいた皆様に深くお礼を申し上げます。今後も各活動にいつそう励んで参ります。ありがとうございました。



第31回春季スポーツ・デー

古賀 亮佑 (第31代スポーツ・デー学生委員会委員長
工学システム学類 3年)

第31回春季スポーツ・デー、いかがだったでしょうか？1日目は、あいにくの雨で参加者の皆様には、ご迷惑をおかけいたしました。しかし、2日目は前日の天気とは打って変わって、日差しが強い真夏日。そのため、正式種目、Sports Field、SD選手権などたくさんの方に参加して頂きました。本当にありがとうございました。たくさんの方々に集まって頂いた第30回秋季スポーツ・デーの閉会から約7ヶ月。今回が自分にとって5回目のスポーツ・デーでした。しかし、参加者とこれほど触れ合うことが出来たスポーツ・デーは初めてでした。

各会場を見て回る中で見られた参加者の笑顔、スポデー委員の笑顔。スポーツ・デー

はこのためであって、これがスポーツ・デーを支えているのだと実感しました。みなさんとあんなにも熱く、そしてあんなにも笑顔が絶えない2日間を過ごすことができたスポーツ・デー。私にとっても今回のスポデーは特別なものになりました。

みなさんの笑顔をもう一度見るためにも、秋季スポーツ・デーは春よりもっと面白く、皆さんに満足して頂けるように学生委員一同頑張ります。みなさん、秋に行われるスポーツ・デーを楽しみに待っていて下さい。10月20日から始まる熱い二日間を私も楽しみにしています。それでは、また秋に会いましょう。



結果報告

チーム名アカデミー賞

加齢なる一族

正式種目上位入賞チーム・ペア

種目	部門	優勝	準優勝	3位
ソフトボール*	男子	茨城Golden Balls	SDルーキーズ	タモリジャパン 筑波大学硬式庭球部
	混合	ファイト憲ちゃんズ	前回覇者 7PIECEソフト部	BOSTONホットドッグス
ドッジボール	男子	チームKANTO	チームガッツ	美女と魔球の合唱団 ニャニーズ
	女子	破壊王	チーム☆ジモン	国関FRESH まあたかし
ソフトバレーボール		いぬばれ	ULISバレーボール部A	やぎばれ ライオンのジレンマ
バスケットボール	男子	レクスBBC	気になっちゃう感じ?	アシンメトリーぴょん invitation
	女子	こわっしょい	わっしょい花畑	タミ・フル活用中 芸バス老
テニス	男子	張・高島		
	女子	竹内・中山	松本・山本	忠願寺・小田切 木田・熊澤
ハンドボール		雨天により中止		
オリエンテーリング		雨天により中止		

*ソフトボールについては、バスト4までの決定となりました。(天候のため)

参加者数およびチーム数

正式種目	部門	チーム数	参加者数
ソフトボール	男子	72	886
	女子	2	27
	混合	58	908
ドッジボール	男子	49	479
	女子	10	99
ソフトバレーボール		105	658
バスケットボール	男子	68	486
	女子	12	92
テニス	男子	40	80
	女子	4	8
ハンドボール	男子	30	273
	女子	2	17
オリエンテーリング		15	82
小計		488	4095
キックターゲット			262
3on3			328
フリスビーサッカー			208
雪合戦			366
ミニサッカー			342
ボウリング			246
UFO			343
ストラックアウト			331
ターゲットバードゴルフ			133
スピードボール			127
チャレンジランキング			
SD選手権		21	79
運動会			
サークル企画			320
小計			3085
合計			7180



第33回やどかり祭を終えて

石井 佑樹 (宿舎祭実行委員会副委員長 工学基礎学類 2年)

5月26日(金)、27日(土)の二日間の予定で、今年も第33回やどかり祭が開催されました。26日の前夜祭は野外ライブステージや、前夜祭パレード、火文字などいろいろな企画がありましたが、残念ながら雨のため中止になってしまいました。翌日の27日の本祭は、前日の大雨とはうってかわって晴天に恵まれ、平砂地区内にたくさんのお客さんが来場し、大きな盛り上がりを見せました。本祭オープニングの樽割りとは花火で本祭開始の瞬間を華やかに飾り、ステージ企画の『Dance Dance Dance』が始まりました。今年は学内のサークルのほかに学外の団体をゲストとして迎え、いろいろなダンスを披露してもらいました。高度で華麗な技が出るたびに、大きな歓声が上がリ、会場を熱く盛り上げました。『飾りじゃないのよ、まわしは』では、熱い戦いと共に、試合の合間にみせるMCのおもしろトークで皆さんには楽しんでもらえ

たのではないのでしょうか?『御輿』では、各学群・学類の特色を出したユニークな御輿が会場を練り歩き、祭に活気を与えました。そして本祭のフィナーレを飾る祭の華『ゆかたコンテスト』では、綺麗な浴衣を着たゆかコン嬢の美しさと、バックダンサーとの息の合ったパフォーマンスに会場のお客さんは酔いしれました。他にもさまざまな企画があり、来場者の皆様には満足して頂けたことと思っています。

来年も第34回やどかり祭を開催することが予定されています。みなさんに「楽しかった」と満足してもらえるような最高の祭を来年も創りますので、ぜひ来てください。お待ちしております。また、第33回やどかり祭を行うにあたって、筑波大学の関係者の方々、そして近隣商店街の方々にたくさんの協力を頂きました。最後にこの場をかりて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。



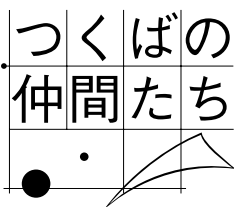
御輿の入賞学群・学類

- 1位 芸術専門学群
- 2位 生物学類
- 3位 国際総合学類

ゆかたコンテストの入賞学群

- 優勝 体育専門学群
- 準グランプリ 人間学群
- 個性派賞 理工学群





体育会の組織はこんなふうになっています。

染谷 健太 (体育会広報局長 社会工学類 2年)

筑波大学体育会は大学から認められた課外学生団体のひとつであり、約3000人の構成員からなる筑波大学で最も大きな学生組織です。

今回は主にこの体育会のプレーヤーを影から支える縁の下の力持ち、執行委員について紹介していきたいと思います。

仕組み

執行委員は基本的に体育会に所属するそれぞれのサークルから選出された者から構成されています。その組織は、「委員長」、「副委員長」、「幹事」、「局長」、「筑波スポーツ編集長」から成り立っております。局は全部で9つあり、その下には体育会に所属する各サークルからそれぞれ1名選ばれる運営委員が配置されます。

各局の仕事内容

それぞれの局は局ごとに仕事を持っています。代表者会議や運営委員会の運営などを行う「総務局」、施設使用願の回収・提出や合宿所使用日程の調整などを担う「施設局」、体育会の運営資金の管理を行う「会計局」、紫峰会〔筑波大学学生後援会〕から支給される援助金に関する業務を担当する「財務局」、毎月サークルから出される活動報告の管理や筑波大学体育会機関誌『紫峰会報』の作成を行う「書記局」、各サークルの運営状況のチェックや外部との連絡、リーダー研修会の企画・運営を行う「渉外局」、応援バスツアー、新入生歓迎祭といったイベントの企画・運営を行う「企画局」、体育会の広報活動、特に『紫峰会報』発行のための取材・原稿執筆、発送作業の運営を行う「広報局」、毎年春秋2回行われるスポーツ・デーの企画・運営を行う「スポーツ・デー局」、医学支部との連絡業務を担う「医学局」より構成されています。

これらの仕事は主に、局ごとに局長が中心となり、運営委員ならびに幹事と協力して行うこととなります。

活動日

基本的な活動日は週に3回あります。うち2回は月曜日と木曜日、20時から体育系サークル会館2階の執行委員会室で行われる会議です。そこでは次回の代表者会議・運営委員会の内容や体育会で起こった問題、また体育会をより良いものにするためにはどうしたら良いかなど、日夜熱い会議を行っております。

残りの1回は、「詰め日」として執行委員会室へきて、窓口業務や自分の局の仕事を行います。

また、局によっては他にも活動日があり、時期にもよりますが毎日仕事を行っている局もあります。

最後に

体育会執行委員はこれからも、今まで以上に体育会発展のため、また自分たちも体育会に所属するプレーヤーとして頑張っていく所存でございます。どうかご支援のほどをよろしくお願いいたします。

本当に最後!!

体育会では、まだまだ新入生を募集しております。まだ、行くか行かないか迷っている人は是非勇気を持って足を踏み出してください。

体育会は君を待っています!!



私たち社交（競技）ダンスやっています！

真壁 孝嘉（自然学類 3年）



はじめましてのご挨拶

皆さん、はじめまして。舞踏研究会第三十二代主将を務める真壁孝嘉です。舞踏研究会（舞研）って皆さんの中には聞いたことある人も多いと思いますが、実際のところ、どんな活動をしているかは結構知らないと思います。そこで今回は舞研のご紹介を簡単ながら、させていただきたいと思います。

舞踏研究会の活動

僕らは東部日本学生競技ダンス連盟（学連）に所属し、関東をはじめ日本の学生ダンサー達と競技しています。中でも筑波は構成員90人を誇り、東部I部校として数々の輝かしい成績を残してきました。

最近日本テレビ系列でやっていた「Shall we dance?」にも出演なさっていた矢部行英先生（体育専門学群卒）や中村俊彦先生、梁田敦先生（工学基礎学類卒）などの素晴らしい先生をはじめ、多くのプロを輩出してきました。

去年は夏・冬の2回行われる全日本学生競技ダンス選手権団体の部で敗れてしまい、特に冬は早稲田に僅差で破れる2位でした。今年こそはと4年生のレギュラーの先輩をはじめみんなと頑張ろうと意気込んでいます。

そしてそんな僕らもダンスの練習ばかりでなく、飲みも遊びもたくさんします。試合で勝った後の飲みはすごく盛り上がるし、夏休みの長期休暇にはみんなで遠くに遊びにも行きます。練習後もみんなで食事をしたり、風呂を貸したり、会員全員で仲良く楽しくやっています。

社交ダンスについて

社交ダンスを実際に生で見たことのある人は少ないと思います。しかし社交ダンスは競技ダンスとしてオリンピック種目になるという話がある位、実はとても奥が深くプロのダンサーのようにかっこよく踊るのはとても難しいことです。またそれと同時に競技会で勝つことも難しいことです。

そして社交ダンスが他のダンスと大きく違う点としてはやはり男女2人で踊るという点だと思います。完全な個人種目と違い一人だけでは試合にすら出場できないし、野球やサッカーのように交代要員がいるわけでもなく、相方はその人しかいません。そこがまた難しいところなのですが、互いに衝突しながらも、その中で成長し、ダンスの技術も身につけられたカップルだけが勝利を手にし、感動を与える踊りをする事ができると思います。

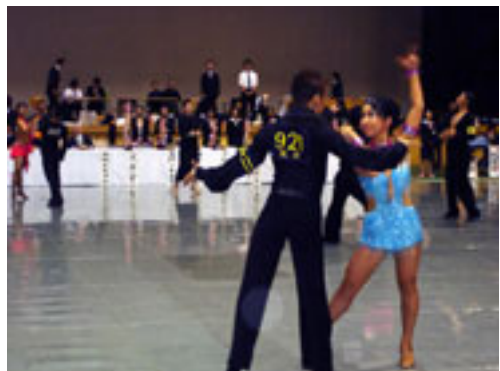
僕も数多くの素晴らしい先輩たちのような踊りに近づくために、これからも頑張っていきたいと思います。

終わりに

舞研について簡単な紹介をさせていただきましたが、ここでは書ききれないくらい、まだまだ舞研には色々あります。

僕らは競技会で踊るだけでなく食堂でダンスパーティーを開催したり、学園祭に出演したり、第二・三エリア食堂前で踊ったり、最近ではダンス部さんの公演に少しだけ出演させてもらったりとちょくちょく学内でダンスを披露する機会もあるので興味を持った方はぜひ見に来てください。

新入生の方でダンスをやってみたいと思った方もぜひ一度練習場（課外活動練習施設；野球場近くの建物）に足を運んでみてください。会員一同心よりお待ちしております。



学外研修施設を利用しませんか？

中内 靖 (学生生活支援室 システム情報工学研究科 准教授)

本学には学外研修施設として、山中共同研修所 (山梨県)、館山研修所 (千葉県)、石打研修所 (新潟県) の3ヶ所があるのをご存知でしょうか？これらの施設は学生・教職員の研修および課外活動、レクリエーション等に、非常に安価な料金にて利用することができます。

以下に3つの研修所を紹介するとともに、次ページに実際に利用された方の声を紹介させていただきます。

山中共同研修所



富士山を擁した山中湖畔に位置し、夏でも涼しく、四季それぞれ豊かな自然の色を呈してくれます。研修室 (2室)、グラウンド (9,000m²)、テニスコート (2面) が整備されており、セミナーやクラブの合宿に適しています。

収容人数：学生64名、職員12名、計76名

備品等：プロジェクタ、白板、卓球台、ピアノ、ソフトボール用具、自転車等

館山研修所



館山は房総半島の先端に位置し、黒潮に洗われるため四季を通じて温暖です。研修所付近では、春は菜の花摘み・イチゴ狩り、夏は海水浴、ヨットを楽しむことができます。研修室 (2室)

も整備され、セミナーやクラブの合宿に適しています。

収容人数：学生40名、職員13名、計53名

備品等：白板、ピアノ、卓球台等

石打研修所



スキーマッカ石打に位置し、冬期はスキー研修でにぎわいます。また、研修室 (3室)、テニスコート (2面)、トレーニングルームも整備されており、セミナーやクラブの合宿に適しています。

収容人数：学生72名、職員8名、計80名

備品等：ピアノ、卓球台、腹筋ベンチ、ベンチプレスベンチ等

研修所利用費

運営費 (1泊1人)

研修所	管理費	暖房費	冷房費
山中	980円	350円 (11月～4月)	
館山	980円	100円 (12月～3月)	50円 (7～8月)
石打	980円	350円 (11月～4月)	

※学外者は別途使用料が必要です。

食費 (全研修所共通)

朝食	昼食	夕食
700円	500円	1,100円

施設利用について

利用に際しては、事前に利用手続きを行う必要があります。また注意事項などもございます。詳細は下記URLを参照下さい。

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslive/recreations.html>

体育と館山・石打研修所

野村 武男 (人間総合科学研究科
体育科学専攻 教授)

筑波大学館山研修所の歴史は100年以上さかのぼる。当時、東京高等師範学校の学生は全員「目指すは3里沖ノ島」を合言葉に遠泳の参加が義務づけられていた。これは当時の校長であった嘉納治五郎先生の「島国である日本の教員は全員泳げなくてはならない」という考えからきている。その後、脈々とその伝統は継続し、現在も体育専門学群の学生は2時間の遠泳を目標に館山研修所を毎年利用させてもらっている。管理人も歴代変わり、現在は村上さんが管理人である。北条海岸の目の前にあり、ヨット・カヌー・ウィンドサーフィンなどマリンスポーツを楽しむには最適な所である。ボートで少し沖に出ると、5月から10月ごろまではキスやコチなどが釣れる。最近では、南ヨーロッパのごとくリゾート風の建物が周りに建ち並び、「磯馴れ松の隙洩れて、昇る朝日の影させば、五百重の潮路～筑波大学水泳部部歌～」の風情とはかけ離れ、隔世の感がある。これも時代の流れと思っている。研修所の村上さん夫妻は学生にとって両親の様な存在で、学生の面倒見も良く、体育やヨット部の学生は本当にお世話になっている。私自身も昭和38年以来ずっとここを利用させていただき、第二の故郷の如くである。

体育に在籍していることから冬はスキーに行くことも多かった。経済的余裕の無い学生時代は石内研修所でスキーを楽しんだ。ここの研修所は有名な大内春江さんが管理人である。昔は木造で吹雪の夜などは雪が部屋に舞い込み、朝起きると布団が白くなっていたり、トイレは伝統的な日本風トイレで冬は富士山の如く産物が下に見えることも懐かしい思い出の一つであるが、現在は鉄筋の立派な建物である。平成19年3月24・25日には退職されるということで、当時の貧乏学生が集まり、春江さんのご苦労さんを盛大に開催した。三代にわたって、研修所を守っていただき、本当にご苦労様でした。

石打研修所と吹奏楽団

成田 洋平 (筑波大学吹奏楽団第
29期団長 工学基礎
学類 3年)

当団は、長年の間、春合宿において石内研修所を利用してきました。毎年同じ土地に足を運ぶということは、その地域に対しての思い入れも自ずと強くなるもので、春合宿中のイベントも地域の方々とのつながりや、貢献に重きをおいたものを企画しています。私自身、2回の春合宿を経験しましたが、普段の筑波での活動とはまた違う貴重な経験をしました。



私たち団員は、研修所の管理人である大内春江さんのことを「おばちゃん」と呼び慕っています。おばちゃんは私たち団員にとって“母”のような存在であり、時に褒め、励まし、優しく叱ってくれます。そんなおばちゃんが平成19年3月をもって退職されるということで、これまでのたくさんの感謝の気持ちをこめて、魚沼市の小出郷文化会館にて「筑波大学吹奏楽団特別記念演奏会」と銘打ったコンサートを行いました。大内さんとご家族・ご友人を招いてのコンサートは、OB・OGの先輩方をはじめ、当団や大内さんとも親交のあった魚沼吹奏楽団の方々にも参加を呼びかけ、当日は現役含め120名を超える人数での演奏を大内さんに届けることができました。また、演奏会後のレセプションでは、石内研修所の長い歴史の中に生まれた人々のつながりや、多くの思い出話に遭遇し、この演奏会を企画してよかったと実感することができました。

最後になりましたが、この企画にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



新入生(学群)に対するアンケート結果の概要について

本年4月に1年生の皆さんの協力を得て、今後本学を受験される方々やご家族に対する広報活動をどのように展開していくかを的確に把握することを目的に「広報戦略室」及び「アドミッションセンター」において内容を企画・検討し、アンケートを実施いたしました。

この度、このアンケート結果を集計いたしましたので、学生の皆さんにも公表いたします。協力をしてくれた学生諸君には感謝すると共に、こんな情報がほしかった等ご要望があれば意見を寄せてください。(utweb@sec.tsukuba.ac.jp)

広報戦略室長 蓮見 孝
アドミッションセンター長 白川 友紀

1 はじめに

このアンケートは、本学を受験される方々やご家族に対する広報活動をどのように展開していくかを的確に把握することを目的にしたものです。

昨年度末に各支援室に依頼し、オリエンテーション時に各学群・学類・支援室の協力を得て実施しました。

「広報戦略室」において実施する初めての全学的なアンケートであること、対象である新入生の方々の回答方法を簡便にすること、集計を容易にすること、等からマークシート方式とし、新入生2,270人中2,062人(91%)の回答を得ました。

2 アンケートの内容等

アンケートは、大学にとって最大の顧客である受験生またはその関係者に対して、どのような情報をどのような方法で提供していくかを把握するための設問とし、広報戦略室員による在学生在を対象としたパイロット調査を経て実施にいたったものです。

3 アンケート結果について

新入生(受験生)の考え方の傾向として、次のことが確認できました。

- (1) 本学の入試に係わる広報活動において、「入学案内」、「ホームページ」及び「オープンキャンパス」は、ほぼ同じ効果をもたらすことが想定されること
- (2) 入学案内は、極めて有効な広報媒体であること(大いに役立った及び少しは役だったが90%を超える)
- (3) 受験生がホームページに求める情報は、「大学の様子」や「授業内容」であること
- (4) 受験生の約4割が自分の意志で入学先を決めていること
- (5) 本学に入学を決めた理由は、「内容のある授業科目」及び「最先端の教育研究施設」が約半数を占めること

4 おわりに

今回のアンケートでは、学生諸君の協力により、高い回答率を得ることができ、広報活動の方策としてどこに重点を置くか等有益な情報を得ることができました。

しかし、3つの設問でその他の回答(内容が把握できない)が20%を超え、設問に対してよりきめ細かな回答内容を設定する等、次回のアンケート実施に向け改善を図っていきたいと考えています。

アンケート結果は、各支援室を通じ各学群・学類(各専門学群・学類別のものを含む。)へ報告するとともに、関係部署に周知し、より有効に活用していきます。

新入生へのアンケート集計結果

Q 1 本学入学の決め手となる情報をどのように入手しましたか？（複数選択可）

- ①受験雑誌（323人11.67%）②筑波大学入学案内（665人24.02%）③筑波大学ホームページ（590人21.32%）④筑波大学オープンキャンパス（516人18.64%）⑤その他（666人24.06%）⑥無効（8人0.29%）

Q 2 受験生の立場で「筑波大学入学案内」は役立ちましたか？

- ①大いに役立った（794人38.51%）②少しは役立った（1065人51.65%）③役立たなかった（47人2.28%）④見ていない（147人7.13%）⑤無効（9人0.44%）

Q 3 受験生の立場で「学群のパフレット」は役立ちましたか？

- ①大いに役立った（553人26.82%）②少しは役立った（829人40.20%）③役立たなかった（75人3.64%）④見ていない（594人28.81%）⑤無効（11人0.54%）

Q 4 受験生の立場で「学類のパフレット」は役立ちましたか？

- ①大いに役立った（620人30.07%）②少しは役立った（686人33.27%）③役立たなかった（71人3.44%）④見ていない（649人31.47%）⑤未記入（5人0.24%）⑥無効（31人1.5%）

Q 5 本学のオープンキャンパスで役立ったものを教えてください。（複数選択可）

- ①学類等の説明（500人18.50%）②模擬授業（145人5.37%）③学生による説明（447人16.54%）④研究室見学（142人5.26%）⑤施設見学（312人11.55%）⑥個別相談（96人3.55%）⑦その他（726人26.87%）⑧無効（334人12.36%）

Q 6 受験生の立場で本学のホームページで役立った情報は何か？（複数選択可）

- ①入試情報（1244人45.85%）②教育・キャンパスライフ（666人24.55%）③新たな学群・学類編成（363人13.38%）④大学紹介ビデオ（99人3.65%）⑤見ても役立たなかった（93人3.43%）⑥見ていない（231人8.51%）⑦無効（17人0.63%）

Q 7 受験生の立場で本学のホームページに掲載すべき情報としてどのようなものが必要ですか？（複数選択可）

- ①授業内容（962人23.58%）②入学試験科目（648人15.88%）③就職進学等進路状況（677人16.59%）④課外活動（501人12.28%）⑤大学の様子（施設設備，学習・生活の様子）（1141人27.97%）⑥その他（129人3.16%）⑦無効（22人0.53%）

Q 8 本学に入学することを決定付けた助言者は誰ですか？（複数選択可）

- ①両親（537人21.85%）②出身高校の教師（561人22.82%）③塾の講師（131人5.33%）④友人（157人6.39%）⑤自分だけで決めた（906人36.86%）⑥その他（157人6.39%）⑦無効（9人0.36%）

Q 9 本学を受験し、入学を決めた理由は何ですか？（複数選択可）

- ①内容のある授業科目（741人25.71%）②優れた教育研究者（385人13.36%）③最先端の教育研究施設（622人21.58%）④通学に便利で都心に近い研究学園都市に位置するキャンパス（361人12.53%）⑤その他（714人24.77%）⑥無効（59人2.05%）

Q 10 大学生活を始めるにあたって知りたいこと、気になることは何か？（複数選択可）

- ①授業科目等に関すること（1429人32.32%）②生活環境に関すること（683人15.45%）③課外活動に関すること（595人13.46%）④奨学金，授業料免除，アルバイト等に関すること（908人20.54%）⑤就職・進学等進路状況に関すること（664人15.02%）⑥その他（82人1.85%）⑦無効（60人1.36%）

Q 11 本学に入学して何を望みますか？（複数選択可）

- ①高度で内容のある授業（1070人24.23%）②快適な学習環境（931人21.08%）③安全で快適な居住・生活環境（805人18.23%）④丁寧で分かりやすい修学指導（792人17.93%）⑤入学から卒業，進学・就職までの適切で一貫した進路指導（640人14.49%）⑥その他（119人2.69%）⑦無効（59人1.34%）

回答者総数 2,062人



関東甲信越大学体育大会が本学でも開催されます。

第56回関東甲信越大学体育大会が、茨城大学（主管）、宇都宮大学、筑波大学を当番大学として、8月20日（月）～8月29日（水）までの間で開催されます。昨年は、本学が6種目7競技で優勝しました。

今年は、筑波大学等を会場として競技が行われる種目もありますので、多くの方々の応援をお願いいたします。

学生部学生生活課

競技期日・競技会場一覧

会 期：8月20日（月）～8月29日（水）

当番大学	競技種目	開催期日	競技会場	所在地
茨城大学	陸上競技	8月25日(土)～26日(日)	笠松運動公園陸上競技場・投てき場	茨城県ひたちなか市佐和2197-28
	テニス	8月21日(火)～22日(水) (8月23日(木)予備日)	水戸市総合運動公園テニスコート	茨城県水戸市見川町2256
	バスケットボール	8月21日(火)～22日(水)	笠松運動公園体育館	茨城県ひたちなか市佐和2197-28
	剣道	8月20日(月)～21日(火)	堀原運動公園武道館大道場	茨城県水戸市新原2-11-1
	卓球	8月28日(火)～29日(水)	堀原運動公園武道館大道場	茨城県水戸市新原2-11-1
宇都宮大学	硬式野球	8月21日(火)～22日(水) (8月23日(木)予備日)	栃木県総合運動公園硬式野球場 宇都宮市宮原運動公園野球場	栃木県宇都宮市西川田4-1-1 栃木県宇都宮市陽南4-5-6
	サッカー	8月21日(火)～24日(金)	栃木県総合運動公園サッカー場	栃木県宇都宮市西川田4-1-1
	ソフトテニス	8月21日(火)～22日(水) (8月23日(木)予備日)	栃木県総合運動公園テニスコート	栃木県宇都宮市西川田4-1-1
	水泳	8月21日(火)～22日(水)	栃木県立温水プール館	栃木県小山市外城371-1
	体操	8月24日(金)	栃木県体育館本館	栃木県宇都宮市中戸祭1-6-3
	柔道	8月21日(火)～22日(水)	栃木県体育館武道館	栃木県宇都宮市中戸祭1-6-3
筑波大学	準硬式野球	8月21日(火)～22日(水) (8月23日(木)予備日)	筑波大学野球場 つくば市さくら運動公園野球場	茨城県つくば市天王台1-1-1 茨城県つくば市金田1603
	ラグビー	8月21日(火)～22日(水) (8月23日(木)予備日)	筑波大学ラグビー場	茨城県つくば市天王台1-1-1
	弓道	8月22日(水)～23日(木)	筑波大学弓道場 筑波大学弓道場(春日キャンパス)	茨城県つくば市天王台1-1-1 茨城県つくば市春日1-2
	バレーボール	8月20日(月)～21日(火)	つくばカピオ 筑波大学球技体育館	茨城県つくば市竹園1-10-1 茨城県つくば市天王台1-1-1
	バドミントン	8月20日(月)～22日(水)	筑波大学第一体育館 つくば市桜総合体育館	茨城県つくば市天王台1-1-1 茨城県つくば市金田1608
	空手	8月22日(水)	筑波大学武道館古武道場 筑波大学武道館剣道場	茨城県つくば市天王台1-1-1



茗溪会学生生活活動支援事業について

この度、茗溪会から下記のとおり、学生の「団体または個人の課外活動の取り組み」に対する支援について募集がありましたので、お知らせいたします。

この支援事業は、紫峰会〔筑波大学学生後援会〕が実施している文化系、体育系及び芸術系サークルの年間活動に対する援助金配分・支援事業とは異なり、団体及び個人が行う特定の活動に対して支援するものです。

ついては、下記の事項を留意の上、申請書に必要な事項を記入し、提出期限までに申請してください。

対 象

筑波大学学群学生および大学院学生で、下記のいずれかの事項に該当すると思われる団体及び個人。

- (1) 健全で優れた成果が期待される課外活動に取り組んでいること。
- (2) スポーツ・芸術・文化活動のほかに、ボランティア活動、地域貢献活動、ベンチャービジネス等で活躍していること。
- (3) 学内の認定団体および一般団体のサークル活動のほかに、学外で活動する団体や個人の活動も対象とする。

選 考

- (1) 団体活動の場合……日常の活動に加えて大きな成果を生み出すための創意工夫、学内貢献・地域貢献への取り組み等がなされていること。
- (2) 個人活動の場合……資金援助を受けたことにより大きな成果が期待できるような取り組み等がなされていること。

支援金額

1 団体または個人に対して10万円～50万円程度
支援事業総額 400万円

採択件数

10件程度

提出書類及び提出期限

- ・茗溪会学生生活活動支援事業申請書……………平成19年7月20日(金)
- ※申請書は、本部棟2階学生部学生生活課(課外教育)において配布します。

提出先及び問い合わせ先

学生部学生生活課(課外教育) ☎029-853-2247・2248

カンニングは不正行為！ 期末試験での不正行為は、懲戒処分となります。

平成17年度、18年度の期末試験において、10名以上の学生が不正行為により、懲戒処分(停学)になっています。これは、本学開学以来の数字であり、大変残念なことです。

安易な気持ちでカンニングをすると、その結果、全学に氏名と懲戒内容が告示され、卒業も延期になってしまいます。後で反省をしても取り返しがつきません。

仮に不正行為が発覚しないで単位を得て卒業できたとしても、一生負い目をもって生活することになります。

学生諸君はそれぞれ自覚を持って期末試験に臨んでください。

学生生活担当副学長
腰塚 武志



●スチューデントプラザについて（お知らせ）

9月初旬から、学生生活及び就職活動に関する総合的な学生支援を行うことを目的に、多くの学生に利便性のある第一エリアにスチューデントプラザが設置されます。

いままで本部棟にあった学生部、キャリア支援室が移転するもので、詳細については9月号でお知らせいたします。

なお、学生担当教員室と学生生活支援室は統合され、4月から学生生活支援室に一本化されました。

第一エリア

- 1 D棟 2階南側 就職課、キャリア支援室
- 1 D棟 3階南側 学生生活課
- 1 D棟 3階北側 学生生活支援室（移転済）

●附属図書館からのお知らせ

夏季休業期間（7月3日～8月31日）の開館時間及び図書の貸出期間は下記のとおりです。

○開館時間及び貸出受付時間

	期間	開館時間	貸出受付時間
中央図書館 体芸図書館 図情図書館 及び 医学図書館	7/3～8/31 (土・日・祝日 及び 8/13-14は閉館)	9:00～17:00	9:00～16:30
		9:00～20:00	9:00～19:30

*大塚図書館は、夏季休業期間中も8/13～14を除き、学期中と同様に開館します。

○貸出期間（全館共通）

6月22日（金）から8月23日（木）までに、貸出または更新を受けた図書、及びWeb上で更新した図書の貸出期間は、通常の3週間より長くなります。

これらの図書の返却期限は、9月3日（月）から9月14日（金）までのいずれかの日となります。返却期限を確認し延滞のないように注意してください。

詳しくは各図書館の掲示、または図書館ホームページ (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>) をご覧ください。また、不明な点は各館のメインカウンターまでお問い合わせください。

なお、8月13日（月）・14日（火）は、全学の一斉休業日のため、附属図書館は休館します。

●平成19年度冷房の運転期間等について

冷房の運転期間等については、過去の5か年の気象データや中期予報を参考に、外気温28℃を超える日を目安に運転を行うことを原則としております。

本年度の冷房の運転期間は、6月26日（火）から9月14日（金）〔土日、祝祭日及び8月13日（月）・14日（火）の夏季一斉休業日を除く〕を予定しています。

運転時間は8時30分から18時まで、室内温度の設定は28℃としております。

冷房期間の延長により、1日当たり約100万円を経費が必要となります。教育研究活動に配慮しつつコストの縮減等により対応することとしており、学生各位におかれましても省エネ等についてご理解とご協力をお願いします。

財務部・施設部

●夏季一斉休業の試行実施について

夏季における心身のリフレッシュ及び省エネルギーに資するため、附属病院を除く全学で、夏季一斉休業が導入されることとなり、下記のとおり平成19年度に試行が実施されることとなりました。

一斉休業期間中は、学生対応の窓口業務なども実施できませんので、その時期に必要な証明書等は早めに取得しておいてください。

一斉休業日：8月13日（月）、8月14日（火）

休業日の取扱い：

職員は、原則、土曜日及び日曜日などの休日と同じ業務体制となり、電気、水道、ネットワークなどは停止しませんが、集中冷房運転は停止されます。

学務部・学生部

●痴漢に注意を！

最近、大学周辺において、午後8時30分前後の時間帯で痴漢が多発しています。

バス停やコンビニ周辺など比較的明るい場所でも発生しています。

犯人は車を使用しておりますので、不審な車には十分注意してください。

学生生活支援室



安全なキャンパス，つくばの人々をつくる筑波大学——— 安全ポスターコンテスト2007 作品募集!!!

学生生活支援室では、安全ポスターを公募いたします。応募作品のうち最優秀作品を12月第1週に実施する安全キャンペーン週間のポスターとして採用し、学内各所に掲示いたします。その他の優秀作品も同期間に開催される安全ポスター展にて展示いたします。皆様のふるってのご応募をお待ちしております。

応募規定

○作品テーマ

安全に関わるテーマ作品を広く募集します。下記に例を示しますが、これらに限定しません。

- ・交通安全（自転車の無灯火注意，飲酒運転禁止等）
- ・防犯（寸借詐欺注意，戸締まり注意，夜間外出注意等）
- ・その他（一気飲み禁止，安全全般について等）

○応募資格等

- ・応募資格は筑波大学の学生（院生・研究生等を含む）・教職員・卒業生（修了生）ほか（学生の家族，ボランティア・アルバイト等を含む）。
- ・ひとり3点まで。制作者と応募者は同一であること。
- ・ポスターをまるごと撮影するなど、他者の権利を侵すことのないよう留意してください。
- ・写真を利用する際は、被写体の方の了承を得るなど、肖像権に留意してください。
- ・受賞作品の使用権は主催者に帰属します。
- ・作品は希望により返却します。

○作品サイズ

- ・A3版を原則とするが、それ以下であれば自由。

○作品種類

- ・コンピュータを利用したグラフィックス：オリジナルファイル（Adobe Illustrator等），印刷用PDFファイル（A4版），応募用紙を提出。
- ・写真：印画紙に焼いたものまたは写真JPGファイル，応募用紙を提出。
- ・原画（水彩，油彩，イラスト他）：オリジナル作品または作品をスキャンした電子ファイル，応募用紙を提出。

○応募用紙

- ・作品1点ごとに、①安全をテーマとしたキャッチフレーズ（可能であれば作品内にもレイアウトして貼り込んでください），②コメント（作品の狙い），③所属（学生は学籍番号も），④氏名，⑤連絡先（住所，phone，e-mail），⑥作品返却希望の有無，⑦著作権ならびに肖像権に触れない旨の誓約，を記入した応募用紙を作成し，添付してください。学生生活支援室でも受け取れますが，下記HPよりダウンロードできます。<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~poster/>

○提出方法（次のいずれかの方法で提出してください）

◎学生生活支援室に郵送または持ち込み

- ・電子ファイルをCD等に収めたもの，写真，原画等に応募用紙を添付して提出してください。
- ・郵送・持ち込み先：

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 1D棟303（筑波大学学生生活支援室）

◎メール投稿

- ・作品1点ごとに応募用紙を作成の上、作品ならびに応募用紙の電子ファイルを添付ファイルにて下記e-mailアドレスに送信下さい。なお、受領可能なデータサイズは10MBまでです。
- ・送付先アドレス：poster@stb.tsukuba.ac.jp

○応募締切：2007年10月1日（月）

審査・表彰・発表

○審査委員長：守屋正彦（学生生活支援室長）

○審査委員：腰塚武志（副学長），田中佐代子（芸術学系），学生生活支援室員，セーフティプロジェクト委員，紫峰会〔筑波大学学生後援会〕の代表者，全大会の代表者ほか

○表彰・発表

最優秀作品は12月第1週の安全キャンペーンのポスターとして採用され、学内の各所に掲示されます。その他の優秀作品も同期間に開催される安全ポスター展にて展示いたします。受賞者の発表はSTUDENTS紙上で発表・表彰し、賞状と記念品を贈呈致します。

主催・協賛

○主催：学生生活支援室，セーフティプロジェクト

○協賛：紫峰会〔筑波大学学生後援会〕

○問合せ先：学生生活支援室（☎853-2269，e-mail: poster@stb.tsukuba.ac.jp）



作品募集ポスターデザイン
芸術専門学群3年 高戸真理恵